confidential

切仕様書

目次

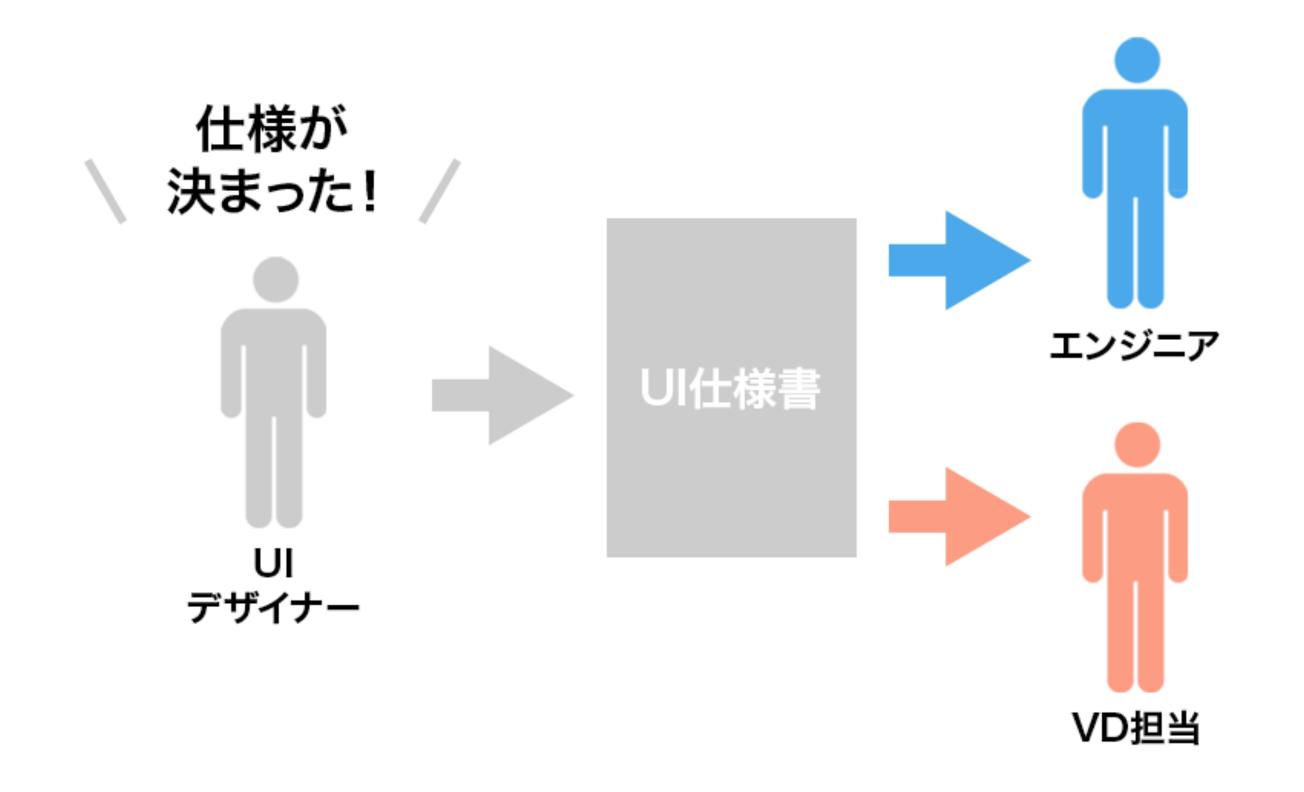
- 1. UI仕様書とは
- 2. UI仕様書の内容
- 3. 作成方法
- 4. サービスごとの社内事例
- 5. レビューのしかた

1. UI仕様書とは

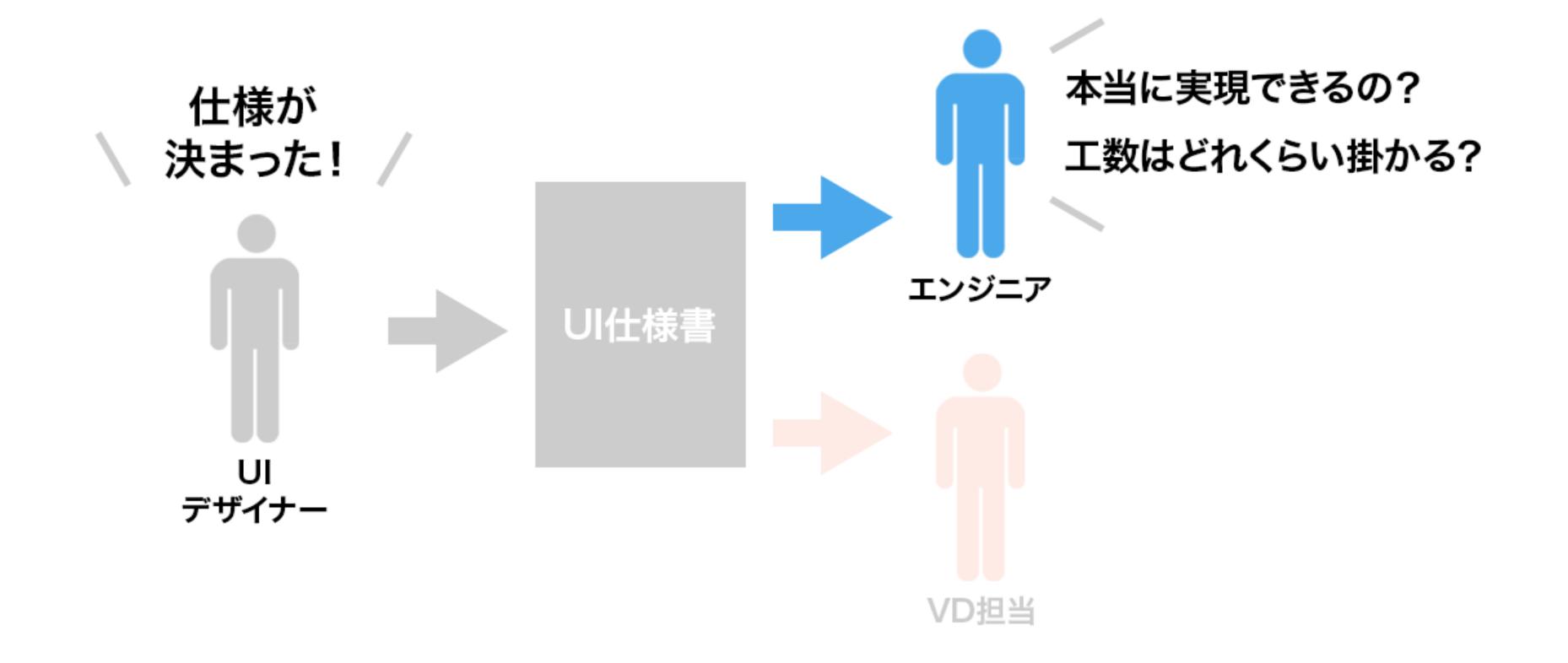
「仕様」ってなに?

モノの構成や、動き、表示内容のこと。

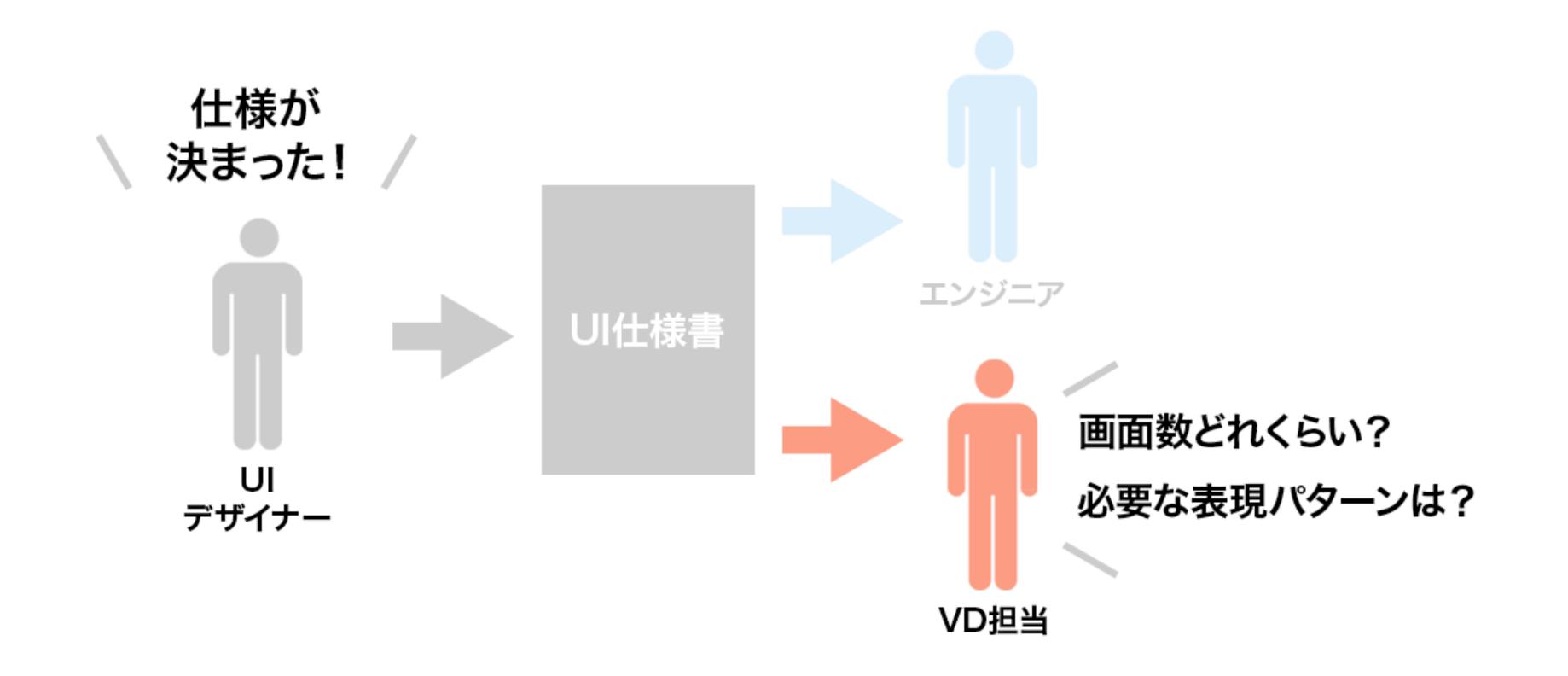
画面や動きの「仕様」を見える化し、他の職種のメンバーに共有する資料



エンジニアはこんなことが知りたい



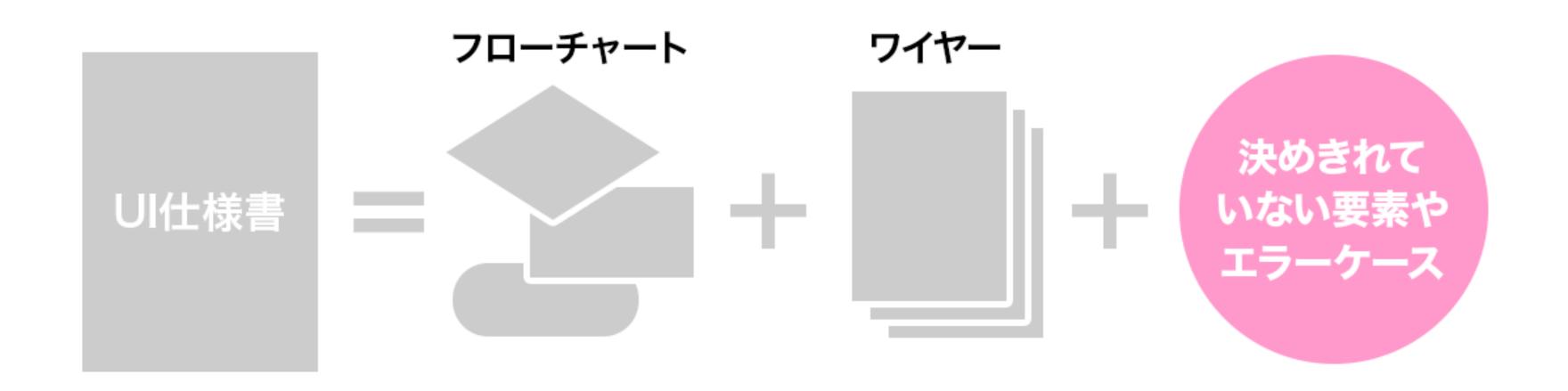
VD担当はこんなことが知りたい

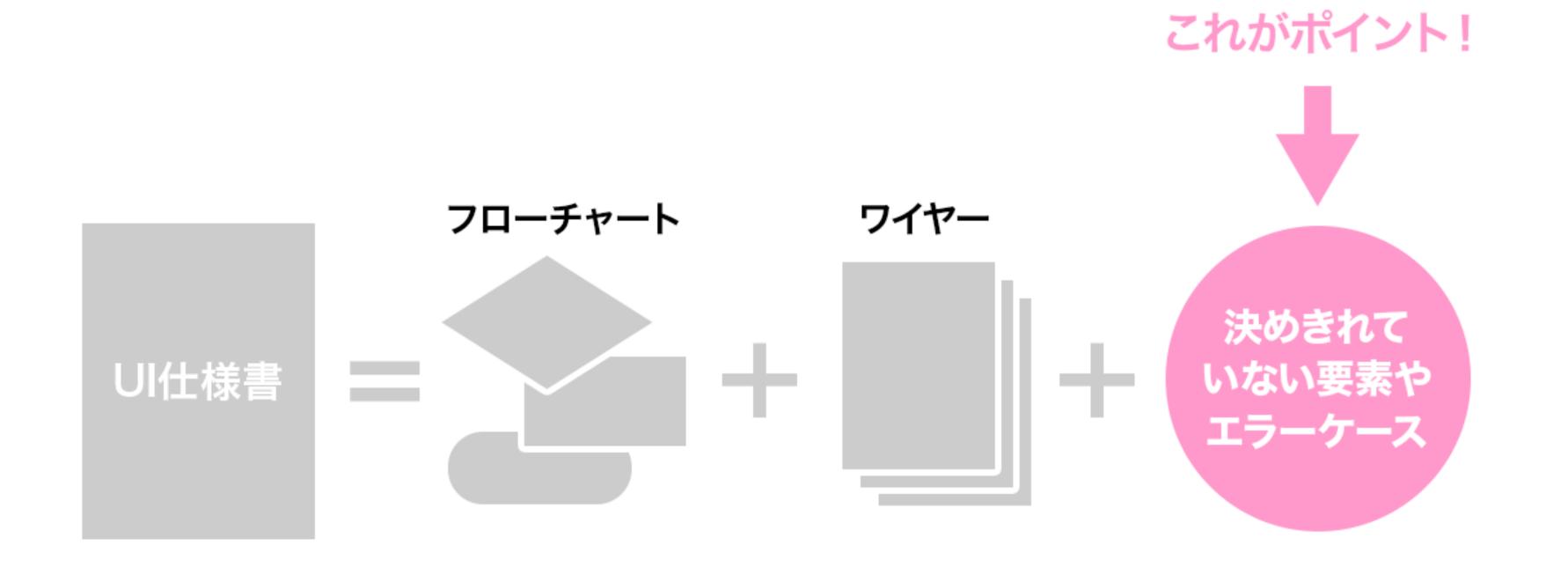


開発が終わった後に、間違ってないかを確認する用にも



2. UI仕様書の内容





決めきれていないものとは・・・

- 想定していない操作や環境で、変なことが起きないか?(エラーケースと呼びます)
- 要素にいろいろな表示パターンが存在しないか?

決めておかないと、どんな問題が起きるの?

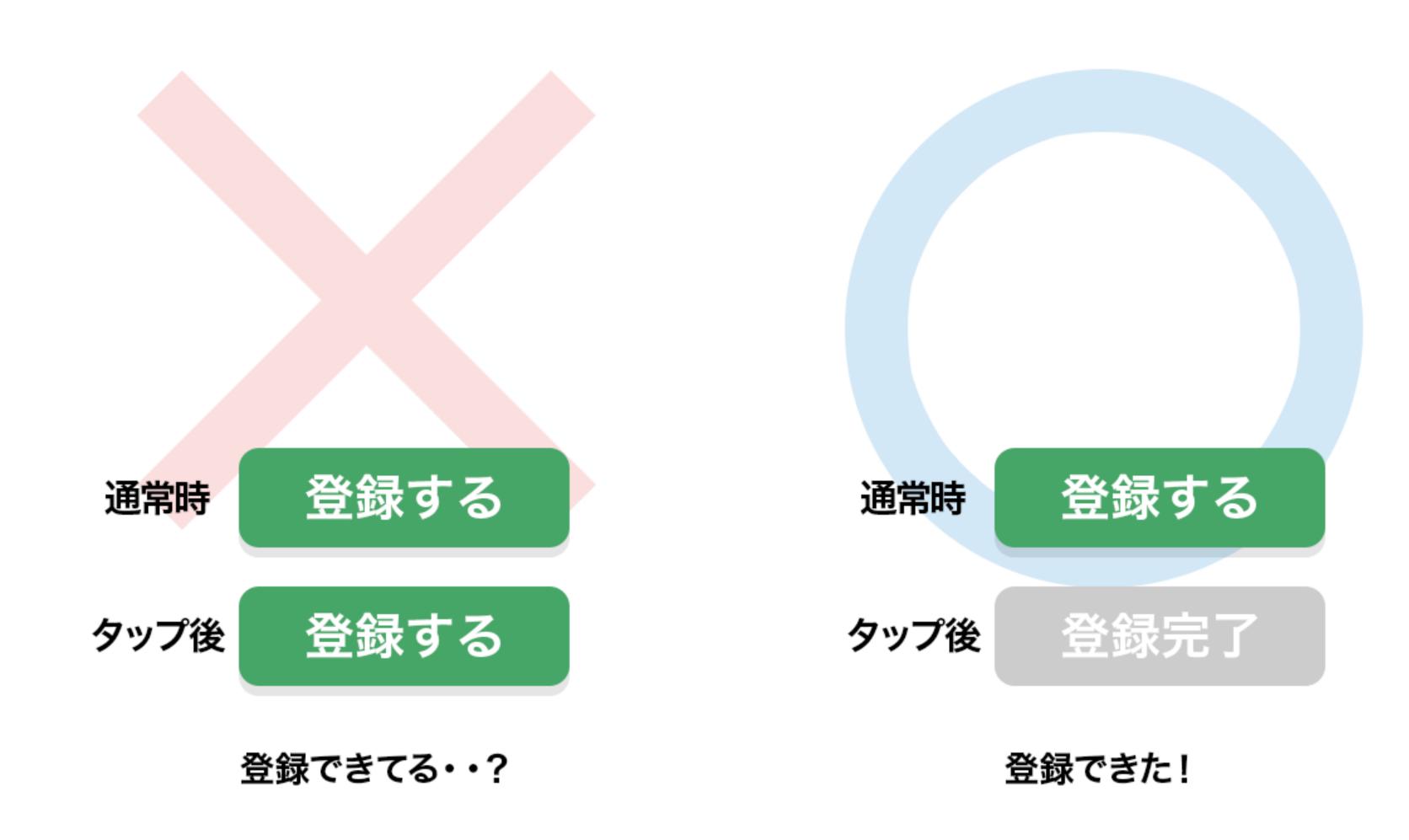
通信圏外の時を考えていないと・・・





状況説明+解決策

登録ボタンの挙動を考えていないと・・・



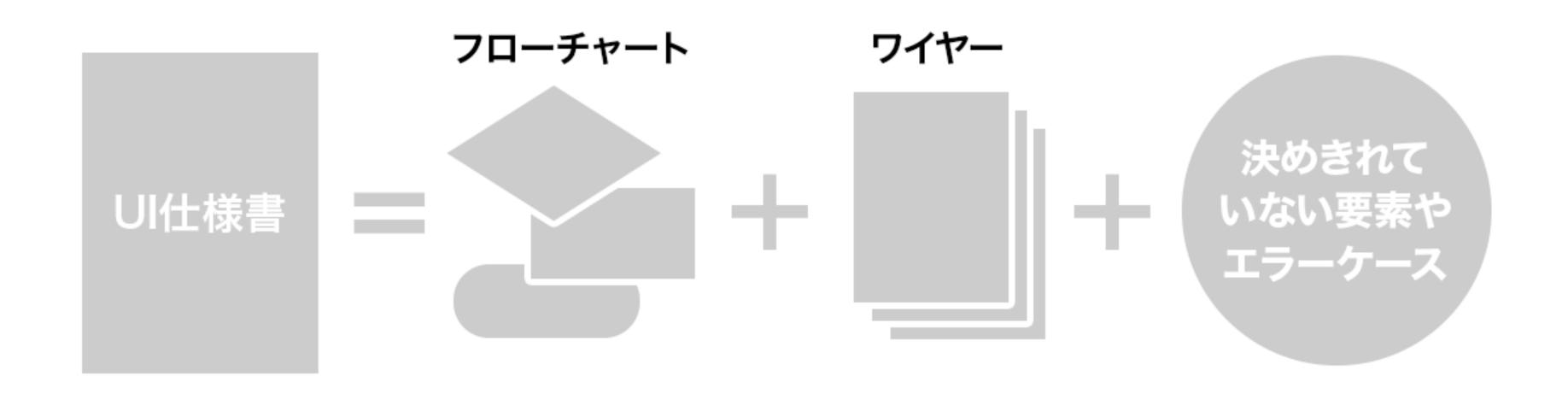
どうやってエラーや表示パターンを見つけるの?

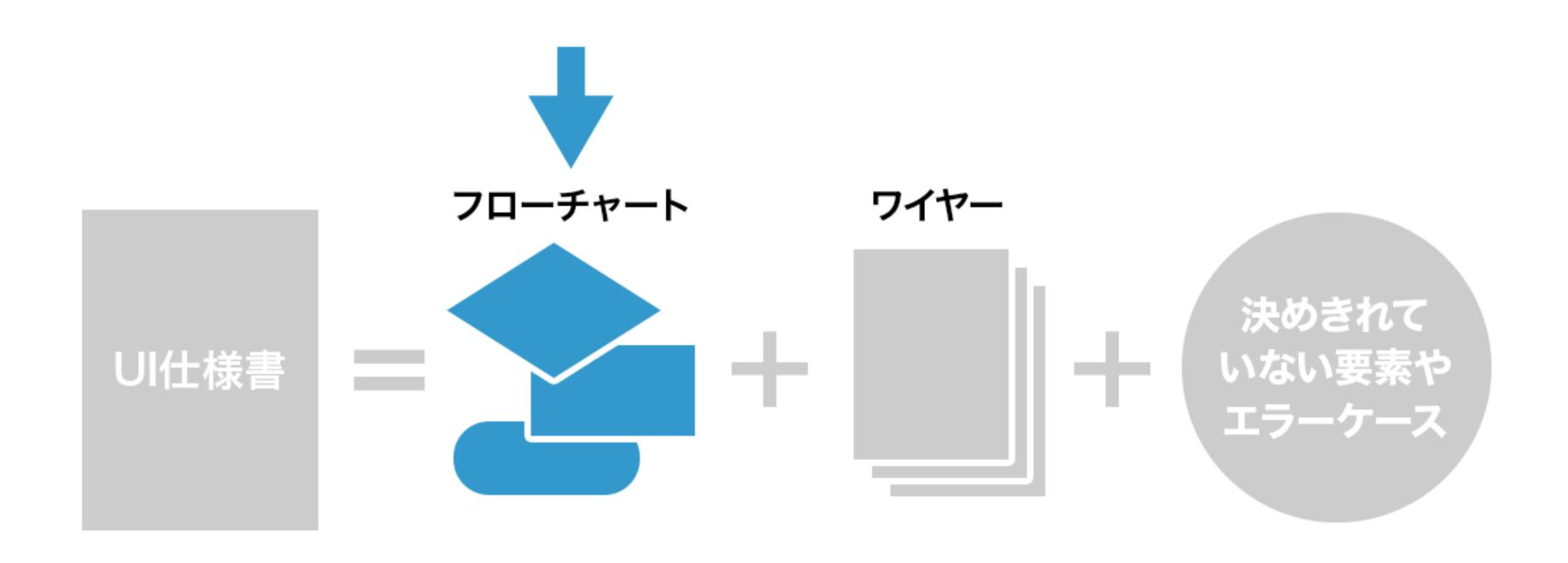
普段使っているアプリを意識して触って見ましょう。

例えば

- ボタンを押したらどうなるかを見てみる
- ・機内モード、GPSオフ、早朝深夜などいろんな状況で見てみる

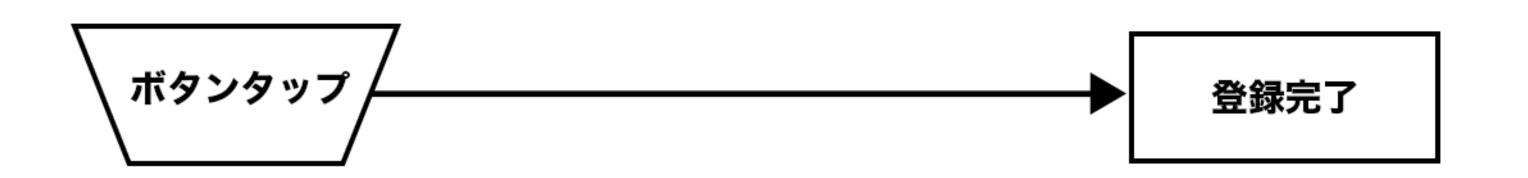
3. 作成方法





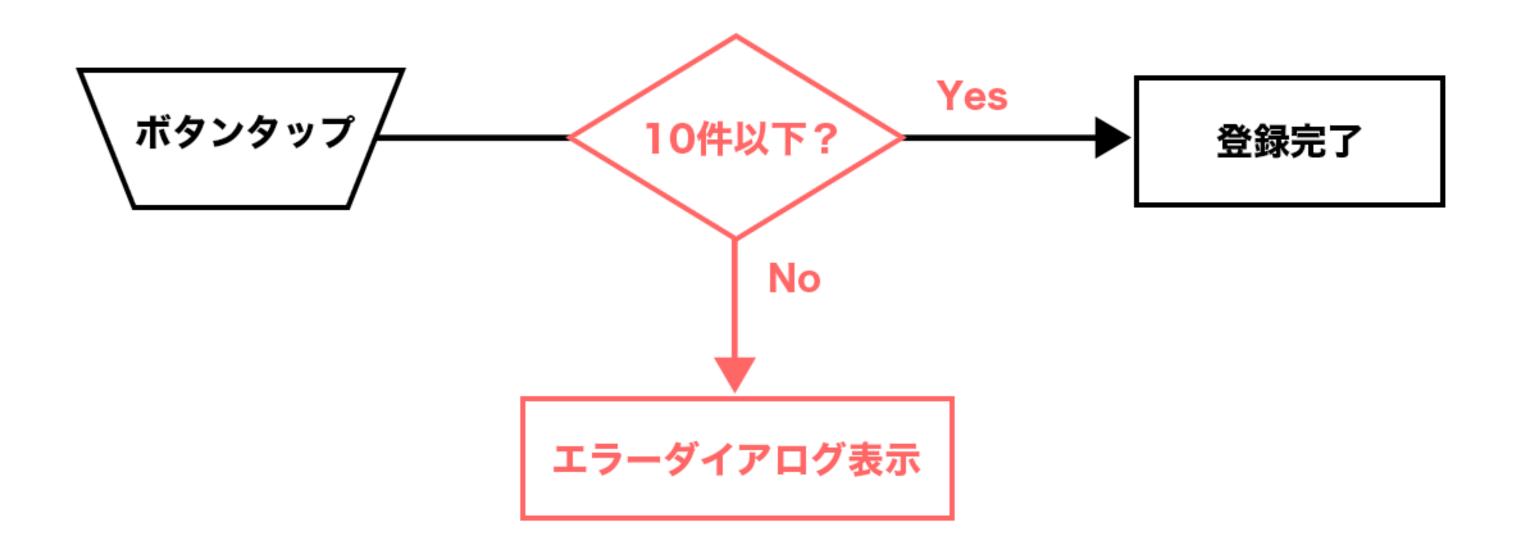
前の講義で作成したフローチャートに追加しましょう

例:ボタンを押して登録完了というUIに、 10件登録していたらエラーになるという仕様を追加



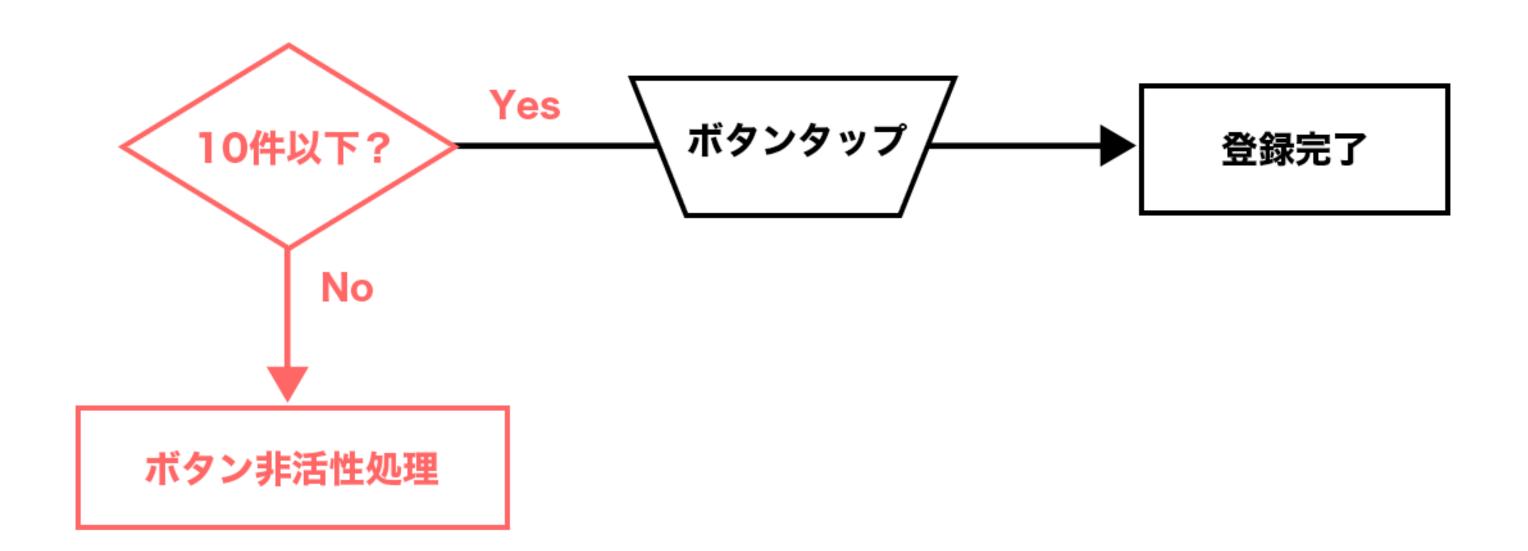
前の講義で作成したフローチャートに追加しましょう

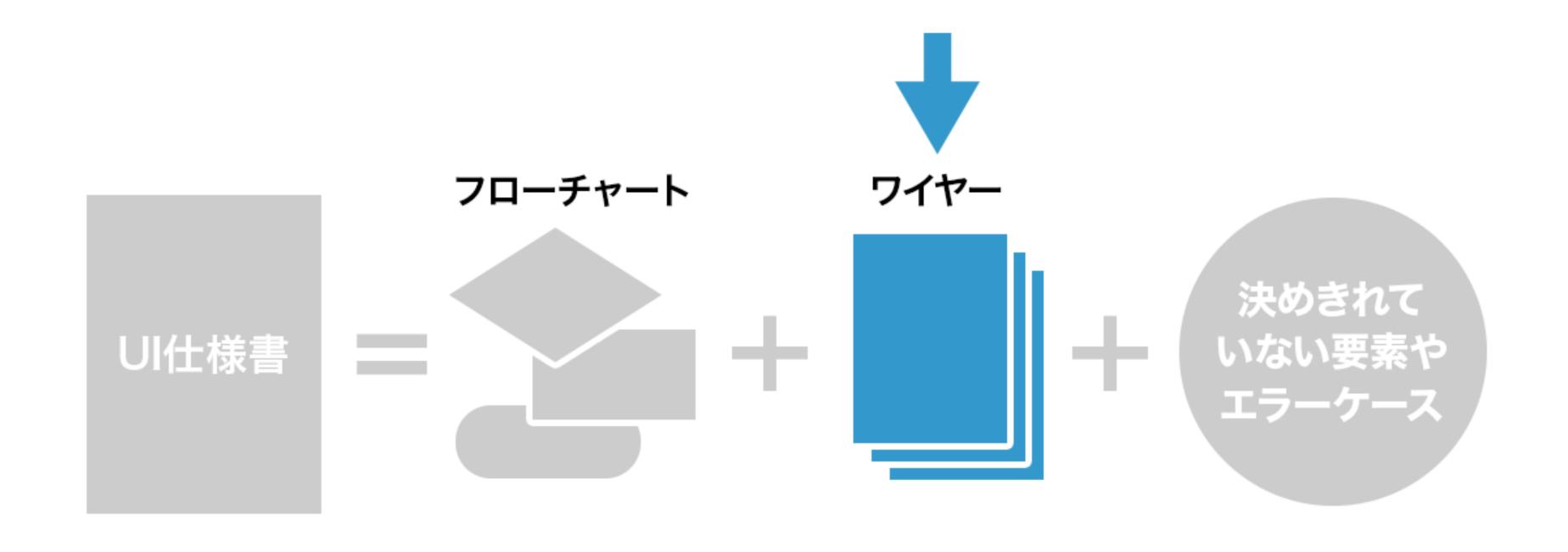
ボタンを押したら、エラーを表示



前の講義で作成したフローチャートに追加しましょう

いろいろ検討してみよう!





画面数が増えるものはワイヤーを追加

エラーケースなど、新たな画面遷移をするものはワイヤーを追加しましょう。

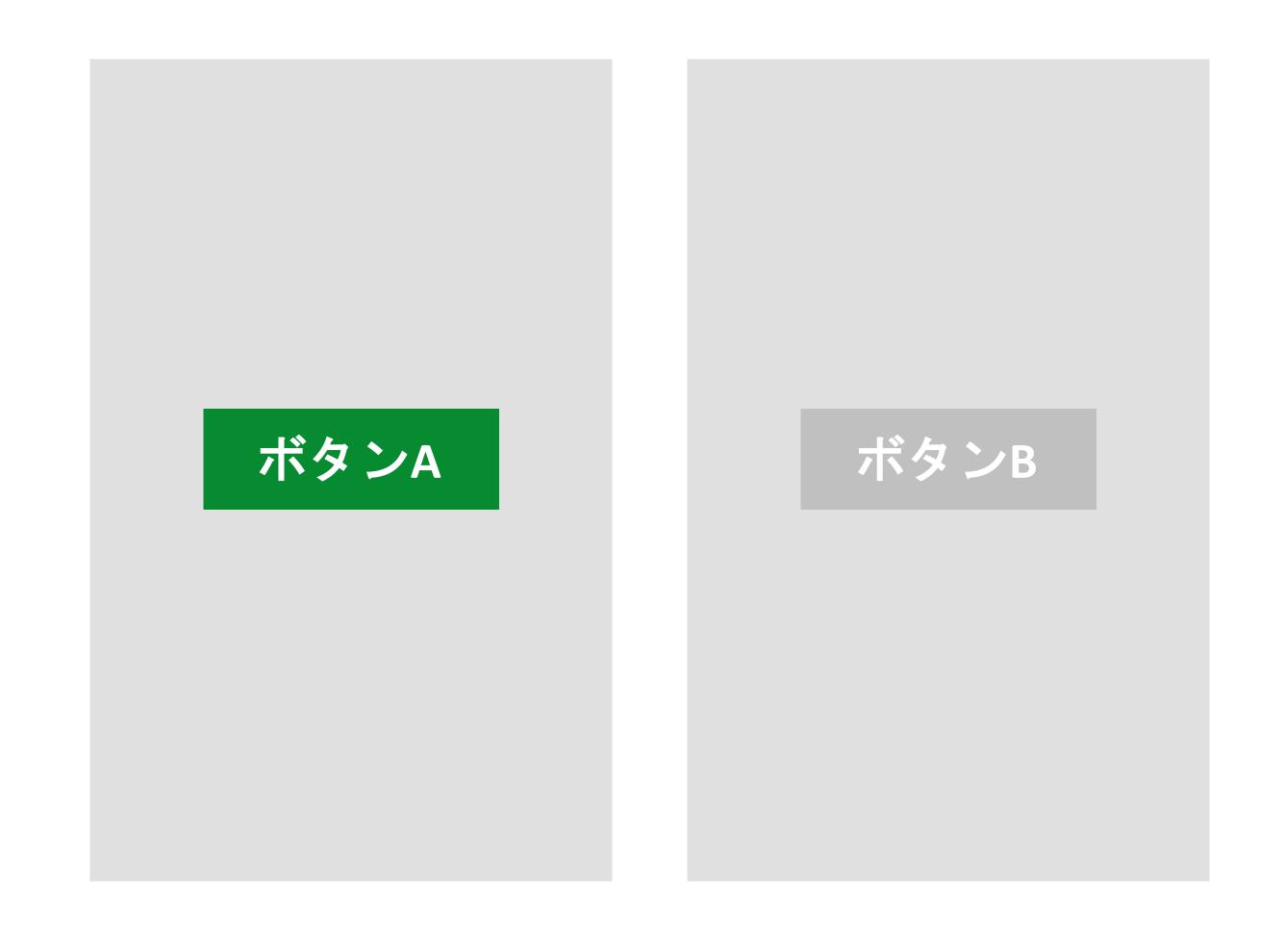
分岐してできた 新たな画面

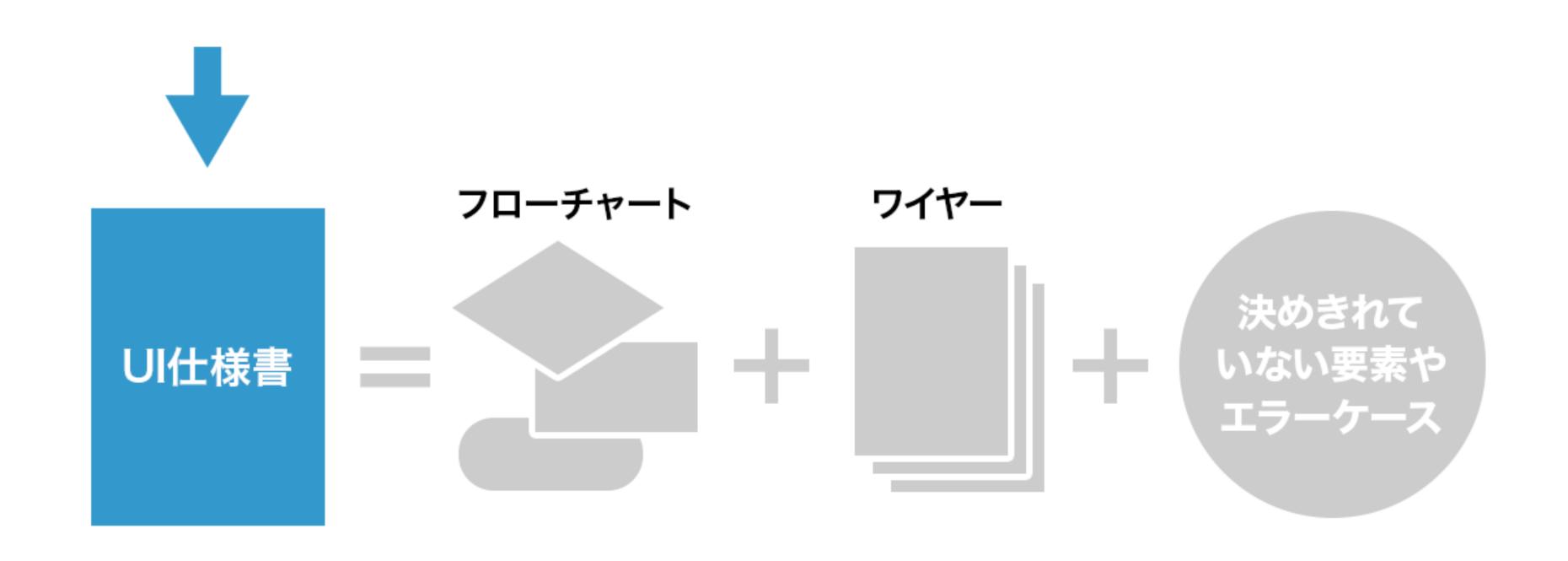
エラー画面

その他、不足していた画面

ワイヤーを増やさなくて良いもの

同一画面内で表示が変わるものは不要です。下記の場合は1画面でOK!





U仕様書はコンフルにまとめます



UI仕様書の内容:要素の説明

主にワイヤーフレームに対して、それぞれの要素が何なのか、どのような挙動をするのか、 条件によって表示が変わるのかなどを記載します。

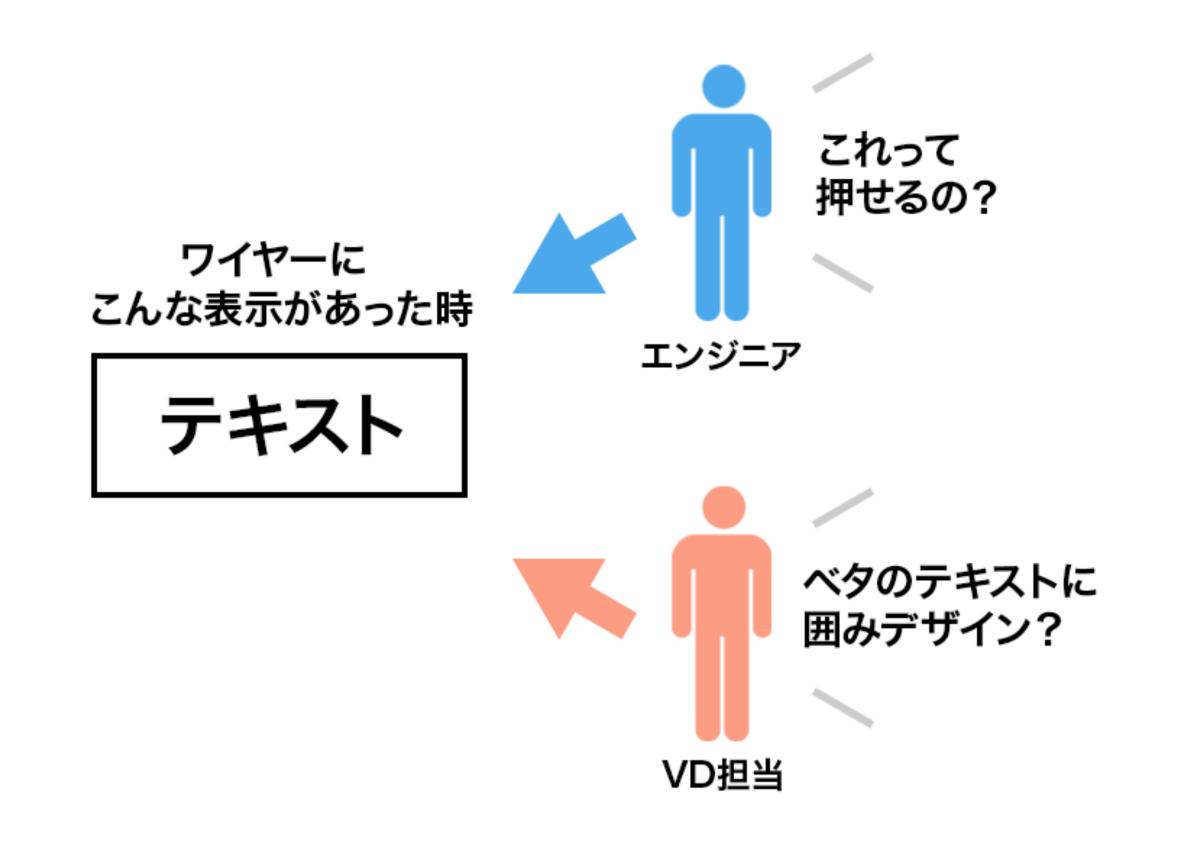
- 1.要素の種類
- 2.タップイベント
- 3.表示条件とパターン
- 4.エラーケース
- ※他にもいろいろありますが、この講義ではこの4つを覚えましょう

なぜ、要素の説明を書く必要があるの?

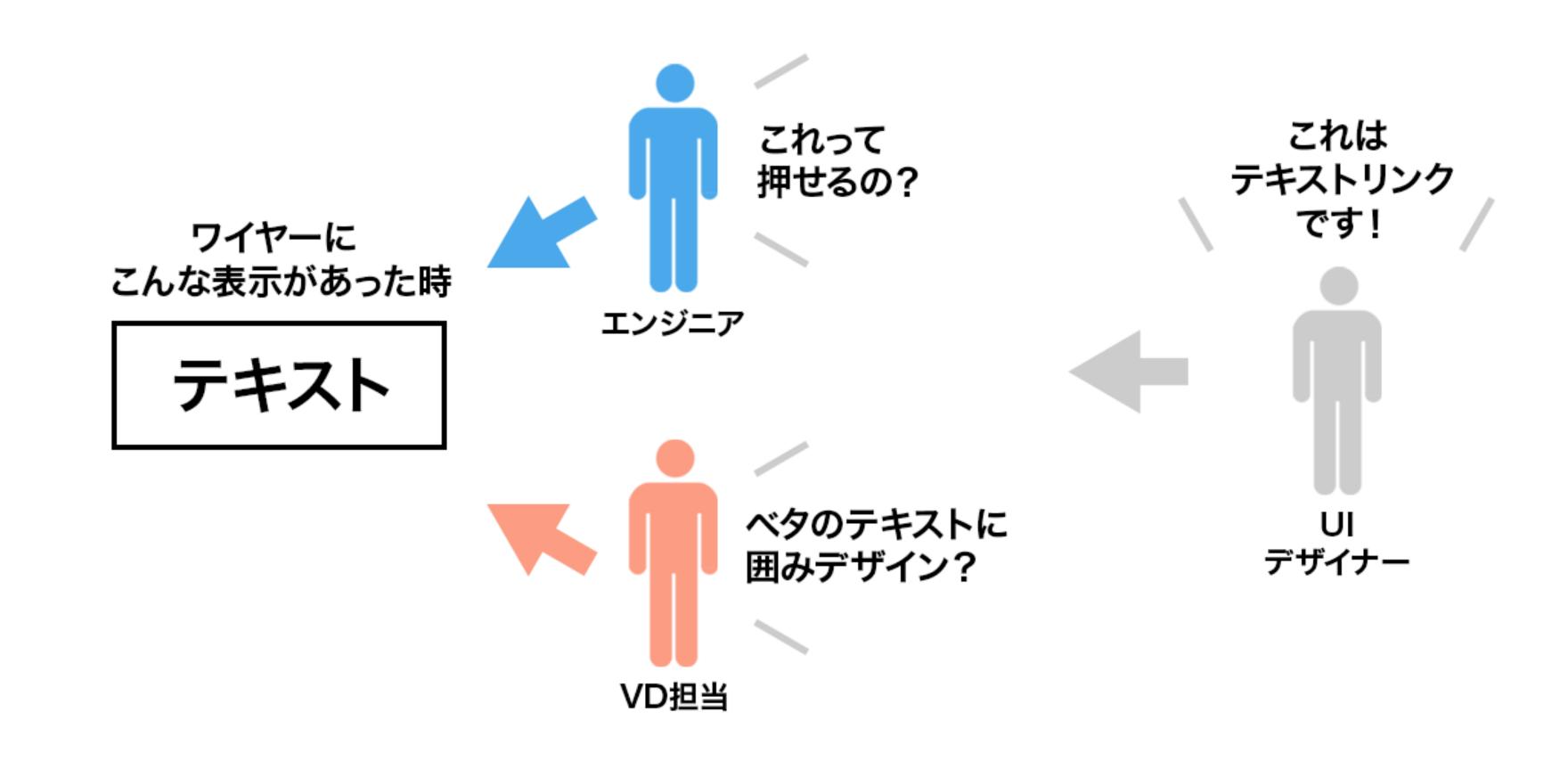
ワイヤーに こんな表示があった時

テキスト

なぜ、要素の説明を書く必要があるの?



なぜ、要素の説明を書く必要があるの?



3. 要素の説明

主にワイヤーフレームに対条件によって表示が変わる

1. 要素の種類

- 2. タップイベント
- 3. 表示条件とパターン
- 4. エラーケース



ボタンなの? ナビなの? 文言なの?

3. 要素の説明

主にワイヤーフレームに対条件によって表示が変わる

- 1. 要素の種類
- 2. タップイベント
- 3. 表示条件とパターン
- 4. エラーケース
- 5. レイアウト

A-03.ここ へ行く



16.行き方選択:

項目 💠	タップ
電車やバス	現在地から該当スポットの検索結果一覧
徒歩(Y!地図アプ リ)	アプリあり:地図アプリで現在地から該当スポットの徒歩ルート アプリなし:ストアに遷移
自動車(Y!カーナビ アプリ)	アプリあり:カーナビアプリで現在地から該当 スポットのルート アプリなし:ストアに遷移
キャンセル	アクションシートを閉じる

タップしたらどうなる? 条件でリンク先が違うこともある?

3. 要素の説明

主にワイヤーフレームに対条件によって表示が変わる

- 1. 要素の種類
- 2. タップイベント
- 3. 表示条件とパターン
- 4. エラーケース

・オレンジドット

表示タイミング:お知らせが追加されて、設定トップに一度もアクセスしていない時。

消去タイミング:設定トップに遷移した時。

・アイコンパターン

アイコン	内容
設定	未読あり
設定	アラーム設定
設定	未読 + アラーム

条件によって、アイコンを出し分ける?

3. 要素の説明

主にワイヤーフレームに対 条件によって表示が変わるのかなどを

- 1. 要素の種類
- 2. タップイベント
- 3. 表示条件とパターン
- 4. エラーケース



- ・現在地付近の駅の後ろの住所欄は空 欄にする
- ・テキストリンクタップで、OSの設定 の該当アプリ設定画面に遷移

0件



・現在地付近の駅の後ろの住所欄は従 来通り表示したまま

エラーケースはどういう条件の時なのかを記載しよう

結構むずかしいと思います

いろんなUI仕様書を参考にして、 まずはマネしてみるところから始めてみましょう

4. サービスごとの社内事例

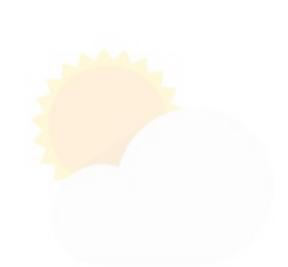
UI仕様書、実はサービスごとでかなり違います

そもそも書かないサービスもあります!





- 特にルールはなく進めている
- ・アジャイル(※)っぽいことをしているので、仕様書は作らず、口頭で伝えたりしている
- ※短期間で、素早く開発を行うやり方



UI仕様書なし











■ Yahoo!かんたんバックアップアプリ

- ・設計時は、主にワイヤーフレームと機能設計・外部設計(※)を合わせた案件検討コンフルを作っていて、確定したところからUI仕様書に落とし込んで行く
- ・UI仕様書は雛形を用意していて、デザイナーだけでなく、エンジニアも一緒に入力する
- ※どういう機能かを大まかに書いた資料

UI仕様書あり









■ Yahoo!天気アプリ

- ・UI仕様書は、基本的に決めているルールはなく、プロジェクトごと、 そのデザイナーごとの進め方に任せている。
- リニューアル時も、それ以降もかっちり作り込みはしていない。
- ※開発サイクルが短く、スモールチームなので、ドキュメントがなくとも合意形成がしやすいため

カンタンない仕様書あり









■ Yahoo!乗換案内アプリ

- ・UI仕様書のルールはなく、案件ごとにエンジニアと相談しながら必要な要素を記載している
- ・様々な条件や時間軸による出し分けが多く、フローチャートよりも 必要な画面表示パターンを重点的にドキュメント化している

UI仕様書あり

大切なのは、仕様書を作ることではなく 「何を決める必要があるか」を理解しているかです

研修では、UI仕様書を作成しますが、 最終的には所属先のルールに従うようにしてください!

5. レビューのしかた

■何でレビューするの?

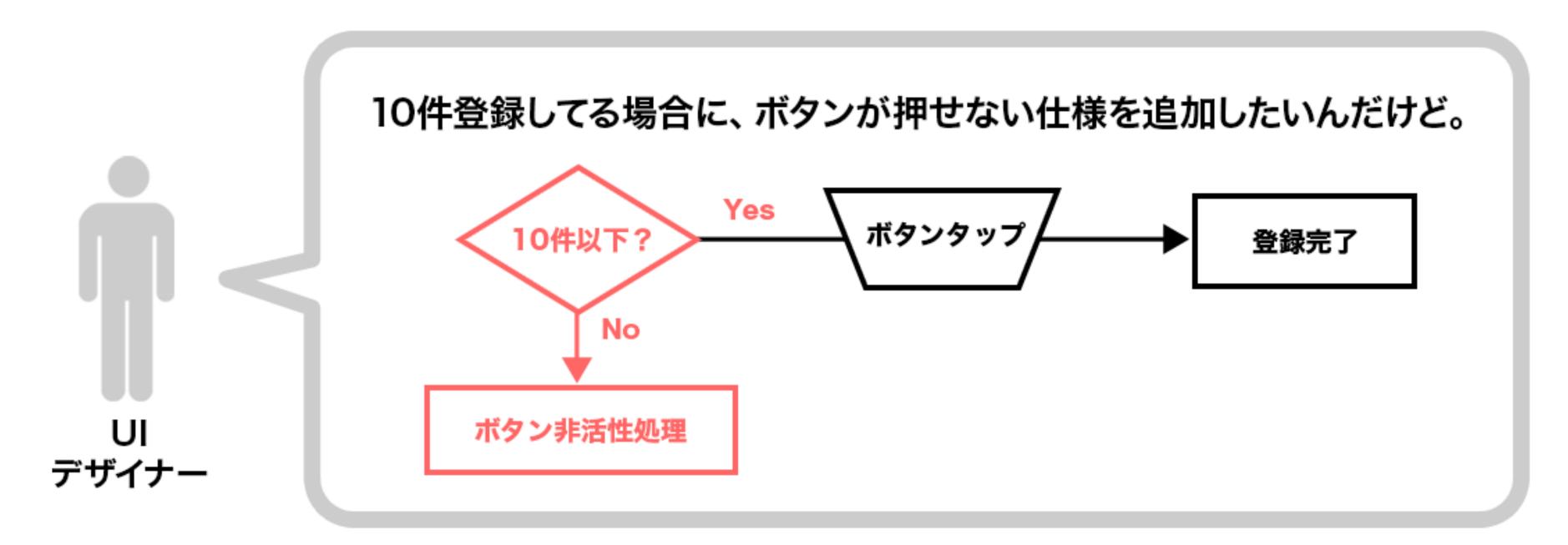
主にエンジニアさんに「これで開発を進めましょう!」と合意を得るためです

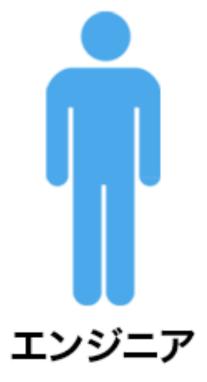
■何を確認するの?

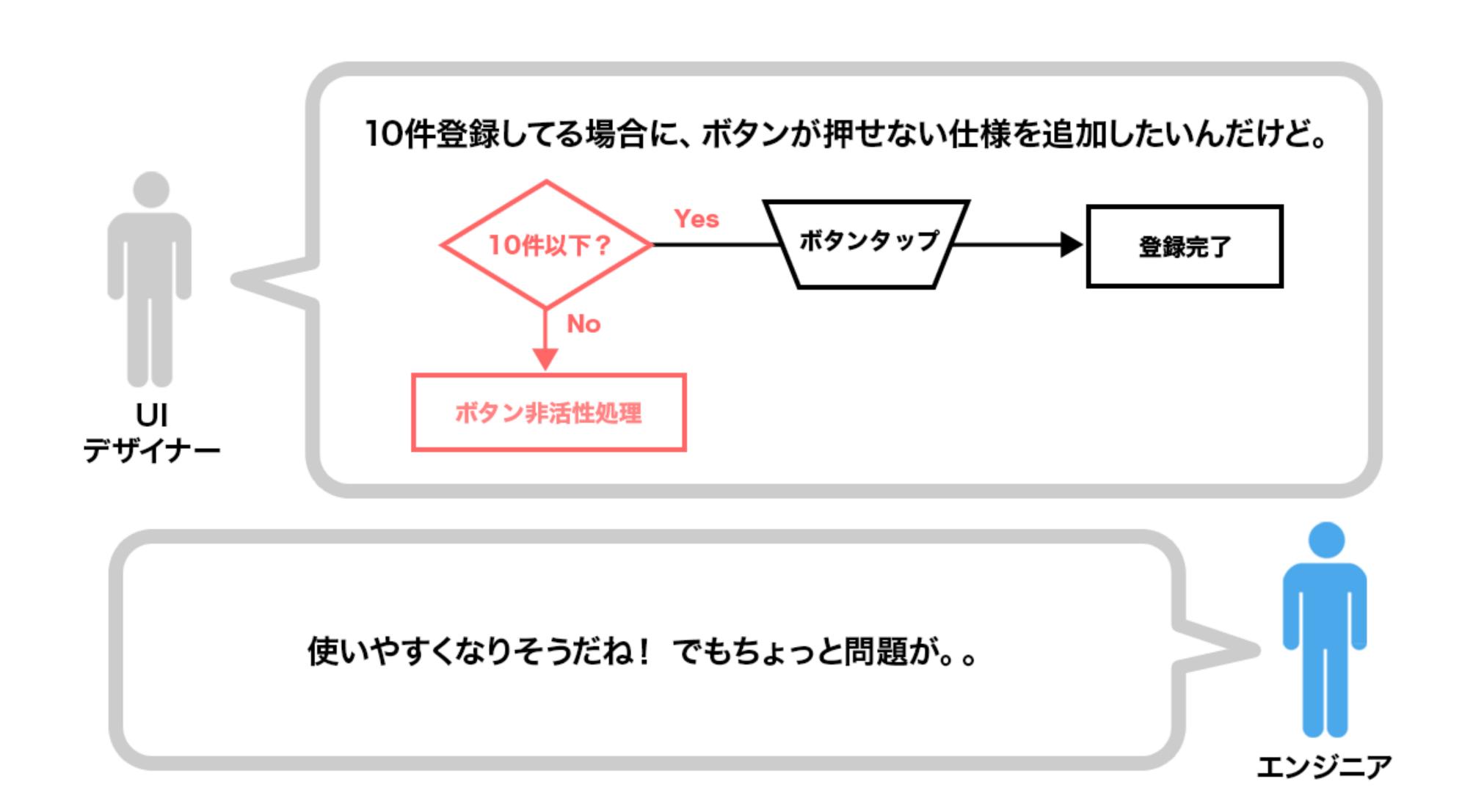
- プログラム的に実現可能か
- ・工数(作る時間)が現実的か

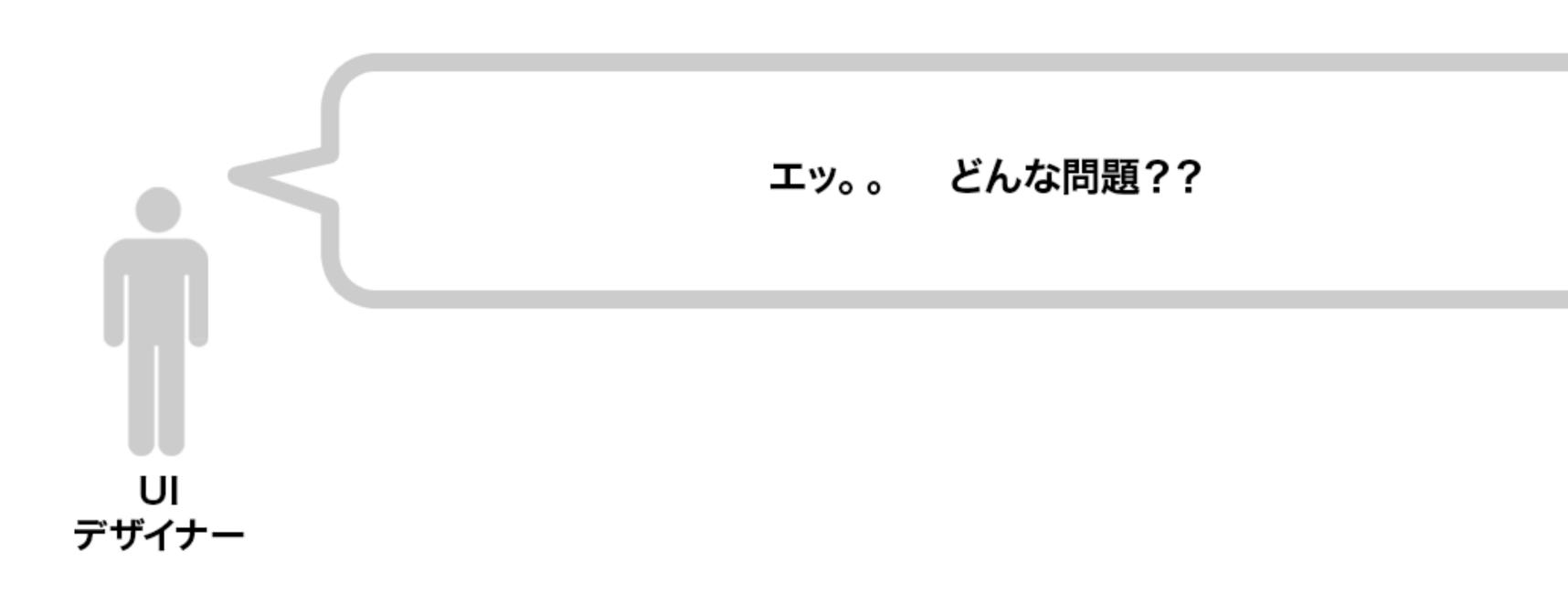
これらに問題がある場合は、その場で解決案を話し合いながら見つけます。 UIに大きく検討が必要な場合は持ち帰りましょう。 ■具体的にどんなやり取りをするの?

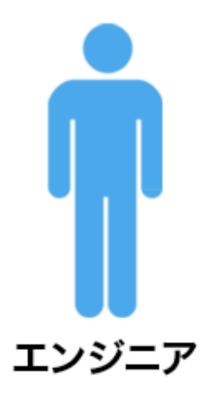
先ほどの登録ボタンの例で紹介します

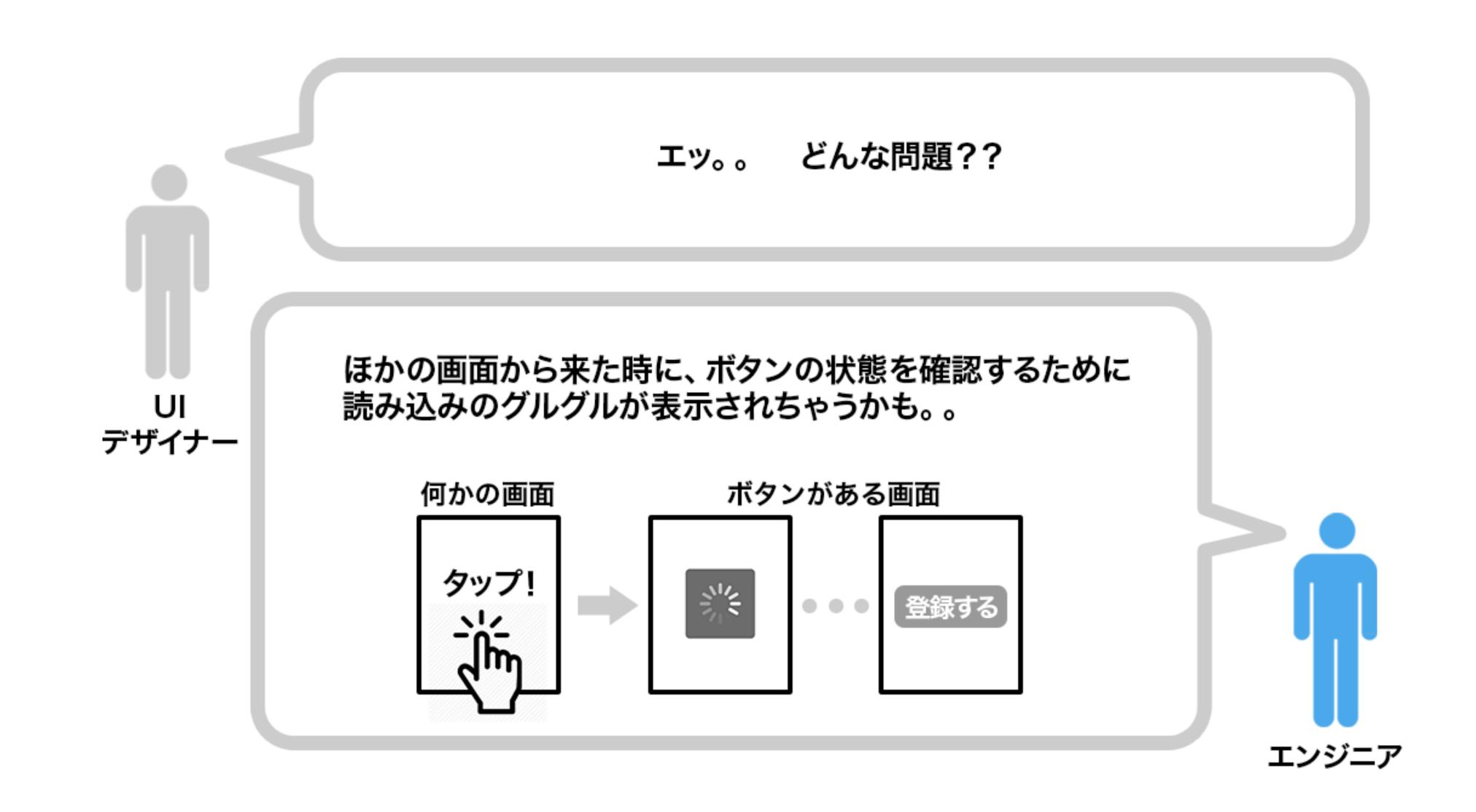


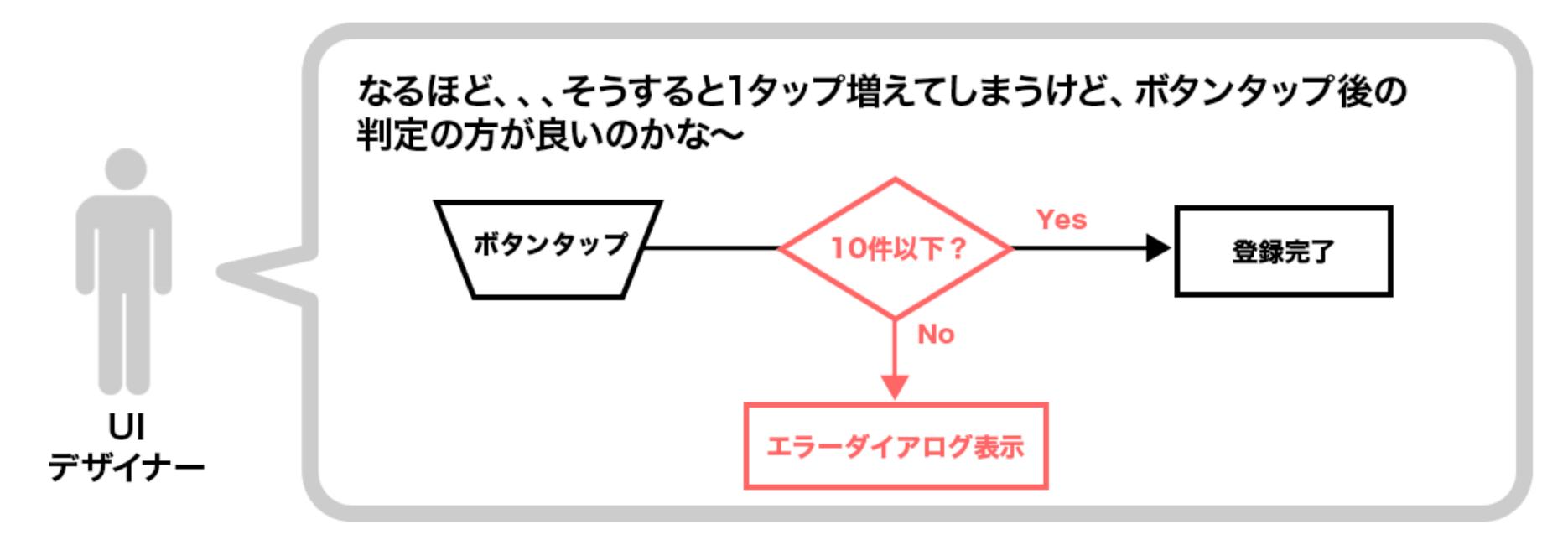


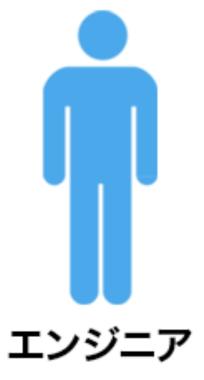


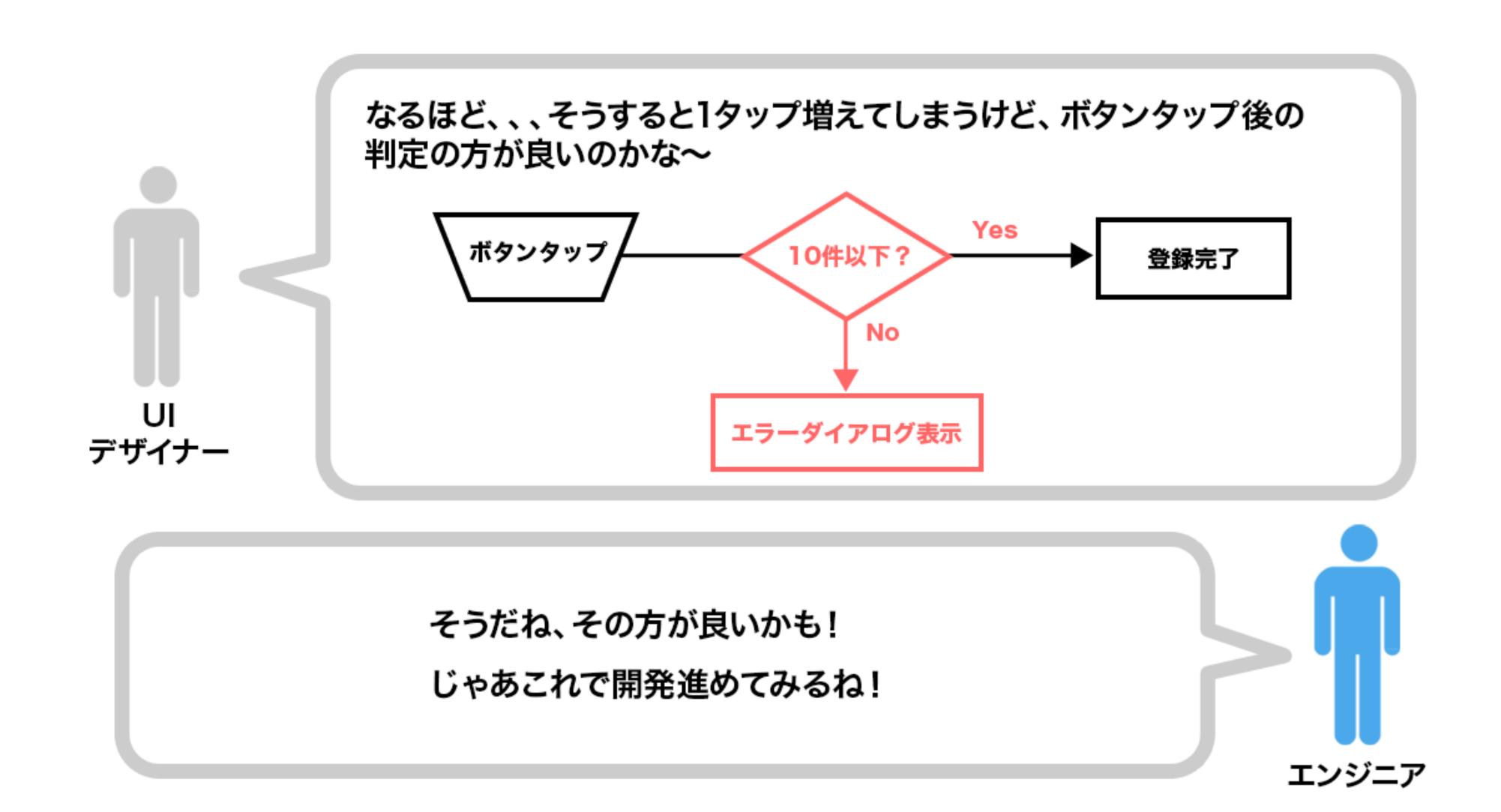












初めからこんなにスムーズにやり取りするのは、とても難しいです

少しずつ練習しながらできるようにしていきましょう!

- 決めきれていない仕様をとにかく探して追記する
- ・他職種の人が理解できる資料にする
- エンジニアに合意を取って開発着手できるようにする